

## 第2分科会「里山と技能伝承」

テーマ： 藁ぶき屋根の伝承 第2部

日 時：2008年4月13日

場 所：山武市成東文化会館のぎくプラザ視聴覚室

参加者：63名

スタッフ：木下敬三



### 内 容

里山に入る、或いは産物を利用するのに道具の他に技能が必要です。何もかも人任せでなく、自分で技能を身につける講座です。

講師 佐藤 勝昇 氏（現職の茅葺職人・山武市蓮沼在住）

里地・里山において古来より脈々と伝承された生活技能が在りました。稲作をはじめとする食料・燃料・日用品をすべて里山から得ていました。戦後（？）になっての燃料革命（？）で石油に取って代われ、里山は忘れられようとしています。

近年、地球温暖化CO2の吸収源・人身の癒し効果・自然回帰・・・で里山の良さが見直されてきました。里山をアクティブに、十分にエンジョイするにはある程度の技能が必要です。

しかしその技能が失われようとしています。ここで伝承していかなければ、貴重な技能が消滅します。それを受け取ろうとする3年連続の実技講座です。

第1年目（2008年）・・・日本の伝統家屋の茅葺屋根の講習をこの日の概略講義から1年間の実技講習を

第2年目（2009年）・・・藁細工を田作りから籾蒔き・田植え・草取り・稲刈り

～しめ飾り・藁草履・藁オブジェ～

第3年目（2010年）・・・大豆食品を畑作りから

種蒔・草取り・収穫～～醤油・納豆・豆腐・味噌ほか大豆食品

### ■生物多様性と里山の観点

生活の食品・燃料・家屋材・・・すべて里山から。生活文化の回帰・再認識を主観点に開催しました。

### ■なりわいの観点

技能保持者から引き継ぎ、生業に結びつけるまで取得できるか？需要はあります。

### ■行政・市民等に対する提言・提案

1年目は引継ぎまでは難しい仕事です。市内に現存する屋根は継続したい。自然体験の場で茅を葺きたい。

### ■ 実習

シンポジウム分科会后、男性1名、女性2名が応募  
佐藤講師が6月に施工する相模原市方面の物件の下準備作業に1週間参加しました。諸事情の都合で現場作業には参加出来ませんでした。



山武市・伊藤左千夫の生家 屋根改修作業中の佐藤講師  
2008.5.14 茅葺屋根の準備葺の加工作業

## ■ その後の効果

“かやぶきやね”なんて癒し効果のある言葉でしょう。日本人の失った心が表現されている様にも思います。生活様式の激変から、心まで変わってしまった日本人。

そんな中でも“かやぶきやね”は一般住宅では難しいでしょうが、神社・仏閣に美術工芸品として残ります。プチ体験の場を求めて当地に来られる方も増えました。他県のかやぶきやねの集落への観光人口も増えているとか？受け継ぎ、残していきたい里山技能です。

里山は、私たちの生活に必要な物、殆んどを得ていました。

衣/食/住

有史以来、永い間続いた、私たちの生活は、明治の近代化か戦後の燃料革命(?)で大きく変化しました。効率の悪さ(?)や価格の面から他の物に取って代わられました。

衣・・・外国産の化学繊維

食・・・外国産の危険な加工食品

住・・・外国産の合板や加工木材

私たちは、里山活動をして里山の再生を目指しています。『里山の再生』は何を意味するのか？緑環境の復元ははもちろん、里山での楽しみ方、里山からの恵みを楽しむ技能の復元、業としての『生業』の再生まで復活しなければ、里山の再生になりません。

「ホモサピエンス」が「人」として「人間」として現代まで発展してきた技能の源は「火」「刃物」です。これが「ひと」の発達段階での幼児期に手に与えられない悲しさがあります。火と刃物の話は、別項に委ねるとしても、伝統的な里山技能にスポットを当てました。

衣・・・食・・・日本人の伝統食、現代でも欠かせません。大豆食品の自作を

・・・伝統家屋の茅葺屋根の技能を勉強しよう。お米の文化、稲わら文化の伝承を

## ■資源循環型の地域づくり

サンプスギによる住まいづくりを核に、森林と暮らしを結ぶ仕組みをつくり、自然、産業、経済の循環する地域をつくる

## ■バイオマス資源の活用

住まいづくりとの結果発生するサンプスギ残材をエネルギー利用して資源の循環を完結し、山林の保全と活用に結びつけて山林の多面的機能を守る。

## ■行政・市民等に対する提言・提案

行政は地域の資源、人材を積極的に使う努力をし、民間事業者は事業を通じて地域貢献する「なりわい」を実践する。持続可能な地域社会を共通目標に、互いの役割を自覚し協力しあう関係を築く。



## ■里山と技能伝承

里山技能伝承講座(かやぶき屋根)

生活の食品・燃料・家屋材・・・すべて里山から。生活文化の回帰・再認識を主観点に開催しました

## ■なりわいの観点 技能保持者から引き継ぎ、生業に結びつけるまで取得できるか？需要はあります。

## ■行政・市民等に対する提言・提案 1年目は引継ぎまでは難しい仕事です。

市内に現存する屋根は継続したい。自然体験の場で茅を葺きたい。

## ■生物多様性と里山の観点